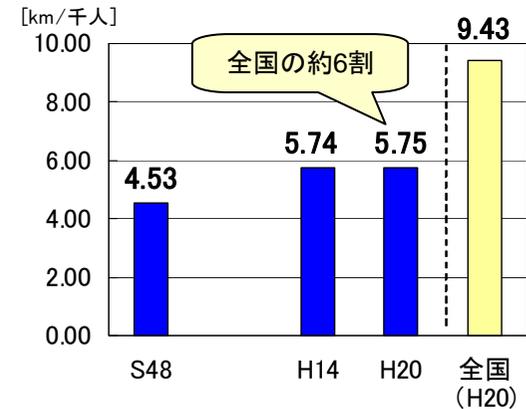
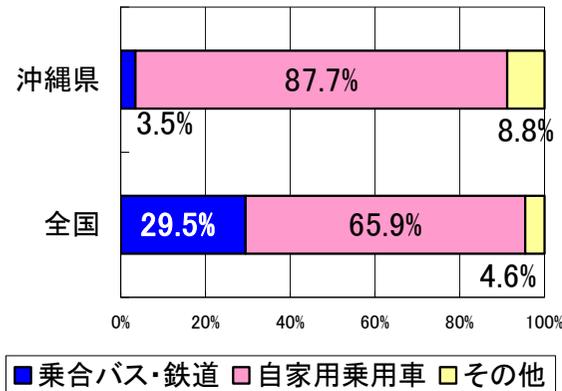


1-6-① 陸上交通（道路・モノレール）

これまでの状況

- 軌道系交通機関の不存在により、陸上交通の大部分は**自動車に依存**
- 復帰後、道路整備が進められたが、依然として**全国水準より低い状態**



那覇都市圏を中心に**激しい渋滞**が発生

地域間を結ぶ幹線道路**ネットワークが整備途上**

現計画における主要な取組

- 『**ハシゴ道路**』をはじめとする**幹線道路ネットワークの整備**
那覇空港自動車道(南風原道路、豊見城東道路)、沖縄西海岸道路(糸満道路、豊見城道路)等
- 沖縄都市モノレールの整備**[H15.8開業] ※乗車人員(H20) 約38,000人/日
- 離島架橋の整備**
野甫大橋[H16.3供用]、古宇利大橋[H17.2供用]、ワルミ大橋[事業中]、伊良部大橋[事業中]

今後の課題

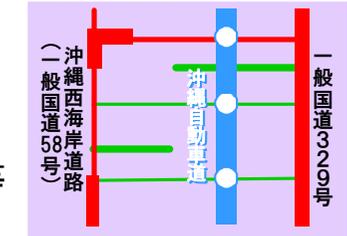
- 地域を支える**幹線道路ネットワークの早期概成**
※那覇空港、主要な港湾等と規格の高い道路が未連結
※小禄道路、南部東道路、名護東道路等の整備
- 都市交通システムの整備**
※モノレールの延長整備、交通結節点の整備 等
- 老朽化が進行する道路ストックの**適切な維持管理**
※橋梁の塩害への対応、除草・清掃 等
- 環境問題・景観への配慮**

図1 機関別旅客輸送分担率

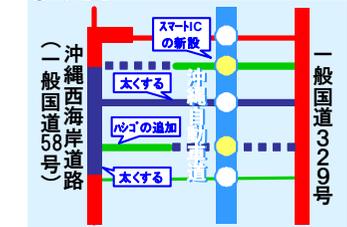
図1:「平成16年度旅客地域流動調査」より作成
図2:「道路統計年報」より作成

図2 人口あたり道路延長

①現況(未完)



②改善



③最終形(強いハシゴ)

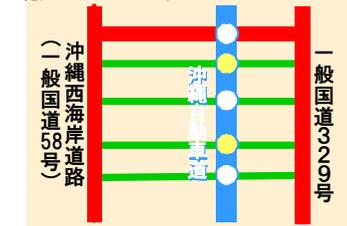


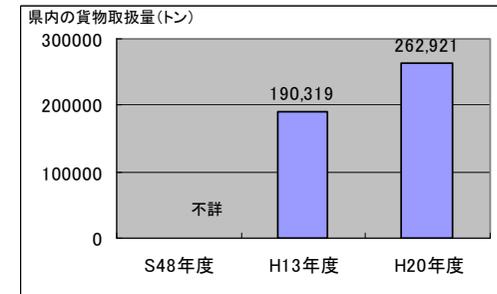
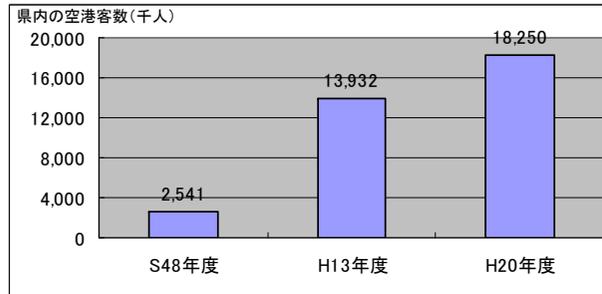
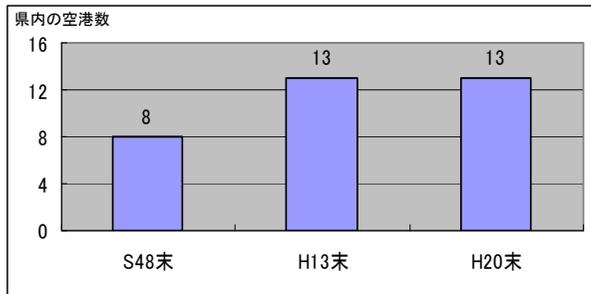
写真 古宇利大橋

図3 「ハシゴ道路」イメージ

1-6-② 空港

空港施設の整備状況の推移

多くの島嶼を有する沖縄にとって、航空機による移動の確保は重要性が高いことから、増大する航空輸送需要に対応しつつ、離島の生活向上や産業振興、並びに県内をはじめ国内外との連携強化・交流の活性化に資する空港の整備を図ってきている。



現行計画における取組状況

現行計画は、沖縄の国内外との玄関口であり離島を結ぶ拠点空港でもある那覇空港の整備拡充を図るとともに、離島の生活向上や産業振興などに資する新石垣空港、与那国空港等の離島空港の整備を図ることとしており、現行計画に基づき鋭意進めている。

【現行計画期間内に完了した主なプロジェクト】

- ・ (新) 多良間空港整備 (800m→1,500m : 平成15年度 供用開始)
- ・ 与那国空港滑走路延長 (1,500m→2,000m : 平成18年度 供用開始)

【現行計画期間内に取り組んでいる主なプロジェクト】

- ・ 新石垣空港整備 (1,500m→2,000m : 平成24年度 供用開始予定)
- ・ 那覇空港の抜本的な空港処理能力向上 (2,700m : 滑走路増設に向けた調査の実施)
- ・ 那覇空港ターミナル地域の整備 (貨物ターミナル地区の整備 : エプロン、排水溝等)

注) 平成21年10月, 新貨物ターミナルビルが供用開始



今後の課題

- ・ 現在取り組んでいる事業については、その事業効果の早期発現に向けて鋭意推進を図る必要がある。とりわけ、那覇空港の抜本的な能力向上を図るための滑走路増設については、着実に進める必要がある。
- ・ 今後、大規模地震に対する「航空の安全・安心の確保」を図るため、空港施設(レーダー、庁舎、地下構造物等)の耐震対策に取り組む必要がある。